



日本に来て感じたこと

G・Aコンサルタント(株)
NGUYEN HA HUNG
(グエン・ハ・フーン)

私が日本に来てから、あつという間に三年が経った。成田空港に到着した初日の夜の風景を、昨日のことのようにはっきりと覚えている。ベトナムの首都ハノイで生まれ育ち、ベトナムの大学を卒業し、ベトナムで二年間就職した、いわゆる完全にベトナム教育・文化の下で育った私にとって、日本は、まさにベトナムとは大きく異なる別世界であった。来日以来、なぜ日本はベトナムと違うのか、なぜ日本はベトナムより発展しているのか、という問いの答えを自分なりに探してきた。日本とベトナムの違いについて、私なりに感じていることを書いてみたい。

私が最も驚かされたのは、日本人の勤勉さである。現在、世界第二位、アジア最大の経済大国となった日本の奇跡は、偶然にあらず、日本人の努力の成果に違いない。日本人にとっては、自分を忘れて仕事に貢献するのは当然のことなのかとさえ感じる。

朝七時に会社に向かい、夜十一時になって会社にいることは、日本では珍しくない。日本人の友達との会話の中で、「何時に帰宅したの」と聞いてみる。すると、「僕は十二



約束厳守によって、個人と個人の信頼関係が築かれ、それが法人と法人の間での信頼関係につながっていき、やがて強固な経済関係が構築される。このように、信頼性を重視する文化・国民性が、経済発展の一要因となったのではないだろうかとも思うのである。

ところが日本人に比べ、ベトナム人は信頼性をまだ十分に重視していない。ベトナム企業は、消費者に対して十分な信頼性を築けていないため、輸入品は「Made in Vietnam」の商品よりも人気がある。

日常生活でも、約束や時間を守る習慣がないため、遅れてもお詫びしないことが多い。私は今でも、ベトナムの友達と待ち合わせる時は、十五分ぐらい遅れてくると考えておいたほうが良いと思っている。

とはいえ、日本社会がなんでも良いとはいえない。良くないこともあると思う。

時ごろ家に着いた」とか「僕は早いよ、九時ごろ。最近はお暇だから」と返ってくる。普通のベトナム人がこの会話を聞いたら、きっと不思議に感じるであろう。ベトナムの会社の勤務時間は、朝八時から午後五時までの八時間であることが多い。しかし、四時半になったら帰宅準備を始めるのが普通である。このような意識の違いが、経済レベルの差につながっていくのだろうか。

多くの日本の工場は、二勤三勤交代の二十四時間で運営し、生産能力を向上させている。長時間労働によって人々の生活時間帯も深夜化し、二十四時間営業のコンビニエンスストアやスーパーマーケットが誕生した。このように、日本の社会は休まずに二十四時間を通して働いているようにも思える。

一方ベトナムでは、人々は仕事を早く終え、早く帰宅するため、店の閉店時間も早く、遅くとも夜九時前後にはほとんどの店で片付けが始まる。一〇時にもなれば、街灯の光はやや弱く調節され、道行く人々の姿も少なくなる。三年間日本で生活してきた私に残っているハノイのイメージは、きれいであり、どこか穏やかだ。それは深夜まで忙しい東京の風景とは大きく異なる。

日本に来る前、「日本人は冷たい」と聞かされた時は半信半疑であった。しかし、日本に暮らしている今では、その冷たさを実感する場面もある。

電車やバスの中で優先席が設けられているが、お年寄りや妊婦さんに席を譲る場面をあまり見掛けない。ある時、三人の若い男性が、電車の優先席に座って話していた。ある駅で妊婦さんが電車に乗り込み、優先席の前に立った。その日は暑く、妊婦さんはタオルで汗を拭き、辛そうな顔をしていたが、三人の男性は全く気にせず会話が続いていた。車内には優先席を譲るようアナウンスが流されたが、結局その妊婦さんは、席を譲ってもらえなかったのである。

最近、日本では「マタニティマーク」のキャンペーンが実施されているが、それを見て私は不思議に感じる。ベトナムでは、妊婦さんに席を譲るのは当たり前のことである。たとえ譲らなくても、周りの人にすぐに注意されるはずである。だが、なぜ日本ではわざわざそのようなキャンペーンを行わざるを得ないのだろうか。日本人は見知らぬ他人への思いやりに欠けているのではないだろうか。知り合い同士ではいつも親切にしあっているのに、公衆の場ではその親切さはあまり見られないように感じる。

また、日本の若者の労働観の変化、つまりニートやフリーターの現状についても不思議に思う。

景とは大きく異なる。国民経済をもっと発展させるためには、日本人のように、ベトナム人ももっと働く必要があるのではないかと思う。

もう一点、ベトナムと違うと感じるのが、日本人が信頼性を重視するという点である。日本で三年間生活してきた今でも、電車の時間の正確さには驚かされる。電車がいつも時刻表通りに発着するため、秒単位まで正確に運行していると感じる。電車がほんの二、三分遅れただけでも「ご迷惑をおかけしております。大変申し訳ございません」などお詫びのアナウンスがすぐに告げられる。それはなぜだろうか。日本人が、電車は時刻表通りに運行すると信頼しきって利用しているからではなからうか。

また、スーパーに行くときよく「国産品」と書かれた商品ラベルを目にする。国産品は輸入品より目立つように陳列され、値段もはるかに高い。高いにも関わらず、購入する人は少なくない。これは日本人が、国内企業、国産品をより高く信頼している証拠であろう。

個人レベルでも、個々の日本人は自分の信頼性を高めてやまないと感じる。他人との間に信頼関係を築くことは難しい限りだが、約束を一度守らなければそれは簡単に崩れてしまう。日本では、約束を守ったり、時間を守ったりすることは当たり前なことであり、約束厳守は日本文化の一要素とも感じる。

私の友達の中にも、大学卒業後、就職せずにフリーターになった人がいる。アルバイトで稼いだお金を海外旅行に費やし、お金が尽きたら日本に戻り、次の海外旅行のためにまたアルバイトをしている。新聞やテレビの報道を見ると、私の友達のようなフリーターやニートは決して少なくない。

不安定な仕事で生計を立てていても悩まない、仕事に対する意欲を持っていない、自分の将来を真剣に考えない、そのような若者が増えており、批判されている。しかし、この問題の責任が、すべて若者にあるとは思われない。家庭教育と社会教育にも責任があるだろう。人間の成長は、家族や社会に大きく影響を受けるからである。

私の世代は、ベトナム戦争の後に生まれた世代である。辛い戦争を経験した両親に厳しく教育され、社会に出て生きるために働かなければならないということを、当然のことと考えている。したがって、ニートやフリーターの問題には、どうしても納得できないのである。

三年間にわたって日本で暮らして、どのような社会でも良い面と悪い面があるということを実感した。他人と接してはじめて自分がわかる。外国の社会に触れてはじめて自国のことがわかる。

国際交流を通じて、お互いを理解したり、良いところを見習ったりすることのできる社会になることを期待している。